

病院種別一覧

～ 病棟の役割と入院期間等について～

種別	内容・機能 — 診療報酬—	入院期間について	特徴・対象患者
一般病棟	急性期の患者に対して状態の早期安定化に向けて診療密度の高い医療を提供する。 【診療報酬 / 出来高制・包括制合算】 荻窪病院、河北総合病院、救世軍ブース記念病院、杏林大学医学部付属杉並病院、清川病院、越川病院、城西病院、杉並リハビリテーション病院、寺田病院、東京衛生アドベンチスト病院、ニューハート・ワタナベ国際病院、浜田山病院、山中病院	区内急性期病棟では平均在院日数10日間以下のところもあり、短縮化している。	→次ページ①
療養病棟	慢性的な疾患により、長期にわたり療養が必要な患者を受け入れる。 【診療報酬 / 包括制】 河北前田病院117床、救世軍ブース記念病院147床、城西病院49床、杉並病院97床、藤村病院25床、浴風会病院49床、ロイヤル病院198床	長期入院可能だが、病状により入院継続困難となる場合もある。	→次ページ②
回復期リハビリテーション病棟	急性期を経過した患者に対し、ADL向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する。 【診療報酬 / 包括制】 河北リハビリテーション病院135床、清川病院60床、杉並リハビリテーション病院101床、浴風会病院50床	傷病により、最長30日～180日と定められている。	→次ページ③
緩和ケア病棟	がんによって生じる身体や心の痛みを和らげる緩和ケアを提供する。 【診療報酬 / 包括制】 救世軍ブース記念病院20床、越川病院34床、東京衛生アドベンチスト病院20床	入院での緩和ケアを要する、病状悪化時に対応。	→次ページ④
地域包括ケア病棟	急性期を経過した患者、在宅療養を行っている患者を受け入れ、在宅復帰支援を行う。 【診療報酬 / 包括制】 杏林大学医学部付属杉並病院49床、城西病院50床、東京衛生アドベンチスト病院23床、山中病院10床、浴風会病院100床	最長60日まで。	→次ページ⑤

※各病院ホームページ(2019.2現在掲載)、「回復期リハビリテーション病棟協会」名簿(2019.1現在)、東京都福祉保健局・医療機関名簿(平成30年)より。

各病棟の特徴・対象となる患者

① 一般病棟

外来や救急、手術等、急性期および高度急性期にある患者が入院対象となる。看護師の配置はじめ「重症度、医療・看護必要度」「平均在院日数」「在宅復帰率」といった基準により、診療報酬が異なる。早期退院が図られ、不要な検査や入院をなくす方向となるが、在宅へ向けた支援が不十分であると、患者は自宅での療養に困難をきたすことがある。

② 療養病棟

慢性期の患者が、医療の管理下にて長期の療養が可能となる。診療報酬は包括制で、患者の疾患・状態や医療処置による「医療区分」と身体状況による「ADL区分」に応じて分類される。(医療用麻薬の使用は包括外で算定は可能)。看護体制が20対1または25対1と一般病棟と比べ薄いため、病状が悪化すると対応困難になることもある。

③ 回復期リハビリテーション病棟

脳血管疾患や骨折などにより、リハビリテーションが必要となった患者が対象となる。急性期の治療後の回復期に、病状に応じた専門的かつ集中的なリハビリテーションを行う病棟である。傷病により、入院受入れ期限と入院期間の上限が設けられている。病状の急激な悪化や高額な医薬品を要するような状態変化があると、入院継続が難しくなる場合がある。

④ 緩和ケア病棟

主にがんの患者の疼痛緩和からスピリチュアルケアまで対応する病棟。がんの緩和ケア自体は、終末期だけでなく治療期から提供されるものである。入院する意味も、もはや“辛い見取り”に限らない。入院して症状緩和を行い、安定すれば在宅へ、病状悪化時は速やかに入院をという療養ができるよう、在宅移行の支援と緊急時の対応も病棟の施設基準となっている。

⑤ 地域包括ケア病棟

在宅生活の継続を目的とし、60日間を限度に、自宅や介護施設への復帰支援を行う。急性期の治療を終了し病院から在宅へ戻る患者、また在宅にて急性増悪など療養継続に不安がある患者が対象となる。幅広い疾患に対応し、治療や看護、リハビリテーションを提供する。高度な医療処置や専門的な医療を担う病棟ではない。